

ようこそ新OB



新たに仲間になった20人の新OB

かわらず、全員制服姿で来た新OBを「そういうところに人柄があらわれる」と感慨深そうに語った。また、新チームが快進撃ができたのは、早めに大学が決まった3年生部員がほとんど休まず、一緒にグラウンドに出て練習してくれた賜物、と感謝を伝えた。

3月20日に天神のピエトロ セントラレーで新OBの入会式が行われた。17歳以下日本代表にも選ばれ節目となる第600号の修猷館賞を受けた永富主将は「修猷館に入り本当によかった。ラグビーだけではなく、いろんな分野で活躍する人がいた。運動会、文化祭に一生懸命になる人などもいて、世界が大きく広がり感謝している。将来的には教員免許を取って修猷館に戻ってきたいと」とあいさつ。新たに仲間になった一人ひとりが3年間の思い出などを語った。渡邊監督は卒業式が終わっているにもか

来年はアルゼンチンへGO!

昨秋に福岡で開かれたおやじラグビーの祭典「ゴールデン・オールディーズ」に修猷OBチームも元気に参加。開会式からのパレード、外国勢との2試合、フェアウェルパーティーと走って、騒いで、飲んで、「修猷ラグビーここにあり」と健在ぶりを示した。第20回大会は2014年にアルゼンチンのマル・デル・プラタで開かれます。有志でぜひ、ご参加ください。



大会は晴天に恵まれた

The High School Match

4月29日は福岡高との伝統の定期戦です

OBもスタイルして集合! 燃えましょう

詳細は決まり次第お知らせします

● 発行 / 修猷館ラグビー部OBクラブ

事務局 / 松尾 邦雄 (S46卒)

〒811-1347 福岡市南区野多目5-10-45

T E L 092-541-5503
携 帯 090-3012-0903
F A X 092-551-7290
E-mail mactaiho@san.bbiq.jp



修猷館ラグビーOBクラブ

会報 平成25年3月号

修猷館ラグビー部 公式ホームページ
URL <http://rugby-shuyukan.com/>

実りの秋へ好発進



17年ぶりの全九州新人大会。長崎南山戦でFW今井が先制トライし、高い攻撃力を示した

「インテリジェンス・ラグビー」を掲げる新チームが、全九州新人大会に17大会ぶり3回目の出場を果たした。1年生(新2年生)が11選手先発する若いメンバーは、福岡県予選の準々決勝で昨年暮れの練習試合で大敗した小倉に36-19(前半14-12)で快勝して勢いをつけた。準決勝の筑紫戦では高橋吾郎主将自らが終了間際にサヨナラトライ&ゴールを決めて、34-33(前半13-19)で逆転勝ちした。決勝の東福岡(12-62)、沖縄での九州大会初戦、長崎南山(19-43)には力負けしたが、ともに先手を取るなど十分、通用する部分もあった。なぜ、好スタートを切れたのか。高橋主将に聞いた。

17年ぶりに九州大会へ 高橋主将語る

——新人戦を振り返って

まずは、福岡県予選の準々決勝で当たる小倉を撃破することを目標にしていました。冬の間、けが人が多く、全体で15人いるかいないかぐらいで、練習試合もできなかった。ずっと自分たちで練習してきて、その成果がでたと思う。小倉に勝ち、次、筑紫ということで、そこは勢い。うちは元気があるチームだから、勝ちにこういう気持ちも皆に出てきた。筑紫に勝てたのは、相手のミスが多かったこともあるが、最後まで気持ちが切れずに、元気でやり切ったことだと思う。

攻守に粘りを

——小倉には練習試合で、トライ数1本—8本で完敗していたがあの試合は点差は開いたが、強いとは感じなかった。十分、戦えたし、どちらかといえば、こちらが自滅したイメージだった。自分たちがちゃんとやれば勝てる。キックからしっかりゲームを作って。本番ではそれができた。

——大会を通じてスクラムは押し込まれる場面が多かった

確かにスクラムは(ボールを)出してくれればいいと先生も言っているし、僕らもそう思っている。でも、ブレイクダウンでは小さいなりに頑張ってくれるし、FWがしっかり球を出してくれるから、自分たちバックスも生きる。すごく感謝している。

一方でラインアウトの精度は高い。ずっと繰り返し練習してきた。数をこなした。山本先生がいろいろ指示をくれる中で、自分たちで考えてやっている。

バックスは、試合ごとにどんどん自信をつけていった。持っている能力が、うまい具合に発展した。

——春への目標を

次の大会で勝てれば、自分たちに本当の実力がついたと思える。筑紫も小倉もチャレンジャーとしてくるから怖い相手になる。こちらは、初めて上の立場だからいろいろ厳しい戦いになるが、東福岡と決勝で戦った経験や沖縄に行った経験をいかして、3、4月、しっかり練習積み、もう1回しっかり福岡県の決勝の舞台へ行って、東福岡と戦いたい。

——東福岡、長崎南山と実際にやってみた印象は

ヒガシの試合はでかいFWに圧力を受けて、バックスも攻めきれなかった。南山戦に関しては、前半はいい試合をできていたが、後半の最初に簡単に取られてしまっって相手を乗せてしまった。



熱心なOBが沖縄まで駆けつけた。元慶大監督の上田さんも

——失点を減らさない限り、強いチームには勝てないのでは

修猷が弱いのは、簡単に点をやり過ぎるところ。でかい相手に低く入り、前に出させないようにしないと、どんどんこちらが下げられてしまう。しっかり粘り強くタックルやブレイクダウンでファイトできるように、フィットネスもつけないと戦えない。これからしっかり強化してディフェンスを粘り強くしたい。

——主将として大切にしていることは

自分が先頭に立って体を張り、アタックにしてもディフェンスにしても背中で見せるようなことができればと。チームに関していえば、最後まで元気を切らさないようにしたい。



筑紫戦でトライをした古城に駆け寄る高橋主将(右)。最後は自ら勝負を決めた

喜多、部活やるってよ 初心者の奮闘

17年ぶりの九州新人大大会へ導いた「陰のMVP」と呼ばれているのが、2人のラグビー未経験者だ。身長163センチ、体重70キロの右プロップ喜多美成と、身長170センチ、体重65キロの右ロック菅田悠介。ともにFWとは思えない細身の体で屋台骨を支えた。

新2年の喜多は、長丘中学時代「帰宅部」だった。経験者の左プロップ今井と同じ中学で、父が学生時代にだ円球に親しんでいたこともあり、入学後、ラグビー部を選んだ。「先輩に混ざって練習するようになってから、これはきついと感じています」。なぜ、3番に挑戦したのか?「足は遅いし、何もできないので、とりあえずできることといったら、スクラム。押されるんですけど、『姿勢はいい』と言われているので」。

初の公式戦出場となった福岡県予選4回戦の輝翔館戦(59—14)を、「一番怖かったです。こんな押されるんだと。ムチャクチャ、怖かった」と振り返る。相手が強くなるにつれ、トイメンの体重も85(小倉)、90(筑紫)、95(東福岡)、104キロ(長崎南山)と増えていき、「俺、場違いじゃねえ、みたいな感じだった」。それでも、ひるまなかつた。「姿勢しか武器がないので、とりあえず、姿勢だけは極めようとスクラムの中でしています。それでもやっぱり、相手のの方が強いので起き上がりますけど、姿勢を取ろうと努力しています」。浮き上がった体で姿勢を保つことは物理的に不可能だが、渡邊監督が「あれだけ押されたのに、スクラムで反則をとられることはなかった」と驚くほど信頼を勝ち得た。

喜多を後ろからサポートしたのが、新3年の菅田だった。中学時代はソフトテニス部。入学直後、仮入部の仕方がラグビー部しかわからず、そのまま居着いた。1年の時は鎖骨を2回折り、練習もほとんどできなかった。「やべー、みたいな。他の初心者もうまくなっていき、僕以外、練習試合もこなし、出遅れているな—と思って。遅れを取り戻そうと、ウエイトもしっかりやった」。入学時、50キロなかった体重を約15キロ増やした。それでも、ロックとしては小さ過ぎる。「最初、ウイングとかやっていた、でも、ボールを落としてあんまり使えなかったので、とりあえずFWいけみたいな感じで言われて……。できることを頑張ろうと思って。初心者だから、他の人はボール取るのとかはうまいので、走るのだけ頑張ろうと。ずっと走っていました」。

新チームの先発でラグビー未経験者はこの2人だけだった。もちろん、このままで、東福岡に勝てるとは思っていない。喜多は言う。「体重を増やして、筋肉で固めた体を作っていきた。今井が90キロ。そのくらいには。2人でセットですけど、僕は足手まといの方なので、僕が強くなればFWの地力もあがる。それだけを目指しています」

先輩の菅田も先を見据える。「タックルの当たる瞬間というか、どうやったら相手を倒せるかが、難しい。みんなより出遅れている部分を取り戻して、少しでも貢献できるようにしたい」

この春もこんなラグビー未経験者が一人でも多く入部してくれることを期待したい。



新2年の喜多と新3年の菅田。スクラムの右側を2人で支える

平成24年、25年度会費の納入にご協力を引き続きお願いします。公式戦用のジャージーがボロボロになり、そろそろ交代の時期です。現役が結果を出し始めた今こそ、皆さまのサポートが欠かせません。何卒、お振り込みください。

★年会費 7000円(学生 3000円、70歳以上 5000円)
★振込先 西日本シティ銀行 西新町支店
普通 1336258
修猷館ラグビーOBクラブ

「大健闘、課題も明確に」 安部会長

安部直幸OB会長は「昨年末の小倉戦を見たが、あそこまでいくとはとても思えなかった。よく頑張った。東福岡と長崎南山、2校の力は抜けていた。似たようなタイプと戦えたことで、修猷の課題も明確になった。FWはスクラム。バックスは基本的にいいが、ボールが動き出した時に慌てることはない。防御に関しては、大きな相手は一人では止められない。二人、三人と防御ができるように精度を上げていかなければいけない」と今後に期待をかけた。



長崎南山戦後、現役の労をねぎらう安部会長